

相生歴史資料マップ3 磐座神社

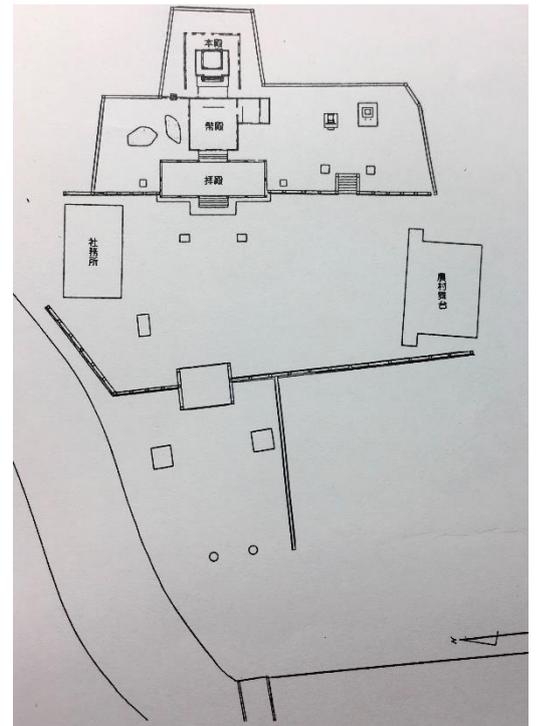
いわくら
「磐座神社の石神信仰」



参道の中心線を示す方向は、社殿ではなく、この座光石が正面にあたるようになっています。



相生市矢野町にあるこの^{いわくら}磐座神社はその名の示す通り、^{いわくら}磐座すなわち神のいます場所に対する信仰をもとに成立した神社です。社殿の奥に「座光石」とよばれている二つの巨石があり、一つは立ち一つは横たわって並んでいます。



磐座神社配置図（『相生市史 第四巻』より）

祭神は紀州熊野神社と同体といわれ、^{いわくら}岩蔵明神、または岩倉権現の名でよばれます。享保5年(1720)神祇官卜部兼敬の「^{うらべかねゆき}磐座権現之社記」には、山上の座光石に神が天降りされたため、これを神と同体と考え、山麓に勧講してからは“神の宿るところ”とした、といった内容が書かれています。

「石神信仰の由来」

石神信仰の始まりはずいぶん古くからあります。イザナミノミコトに追われたイザナギノミコトが^{よもつひらさか}黄泉比良坂まで来、そこにあった大石で道を塞ぎ、追ってこれられないようにしたという話は、“大石は悪魔を祓う呪力をもつ”という思想から出たもので、これによって、死者の国と生者の国とが分けられました。

「身近な石神信仰」

石神信仰は案外日本人にとって近いところにあります。先の神話も然り、国歌の『君が代』で、

“さざれ石(小さい石)の
いはほ(大きい石)となりて
苔のむすまで”

とうたうのも、御代の発展を石の成長になぞらえているわけで、“石は成長する”—それだけの呪力がある—と考えた古代人の信仰を端的に示しています。

「力石」

いむくら
磐座神社の力石は、境内に入ってすぐ左にある社務所のそばに置かれています。石には神がやどり、かつぐと神のお助けをうけるという一種の石占いとしました。



「おわりに」

約300年ものあいだ磐座神社はありました。ですが相生にゆかりのある方でも、この記事を読んで初めて知ったという人もいたのではないのでしょうか。私も学校で相生歴史巡検に参加して、探究活動の一つとしてこれを書くことになるまでは、矢野神社の名前すら知りませんでした。相生はとても歴史のある町、歴史を経ているに残る建造物が多く残る町です。この記事で磐座神社の魅力が伝わり、相生を好きになるきっかけの一つになれば幸いです。



磐座神社拝殿 参道の中心線は左奥に見える座光石に向かって見えます



秋の磐座神社 紅葉が美しいです 隠れた名所です

参考

- ・島田清『ふるさと相生の歴史』(相生市教育委員会 相生の歴史を考える会、1979年)
- ・相生市史編纂専門委員会編『相生市史 第四巻』(兵庫県相生市・相生市教育委員会、1987年)